

玉川教会たより

NO. 462

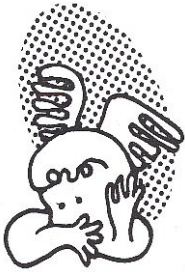
10月19日

▼10月8日の聖書研究祈祷会で、ルカ13章を読みました。1章から順に読み続けて、半分を超えたこととなります。13章13節、『その上に手を置かれた。女は、たちどころに腰がまっすぐになり、神を賛美した。』

『腰がまっすぐになり、神を賛美した。』

『神を賛美した。』は、病が癒やされたことと並べて、むしろそれ以上に、正しい姿勢で立ち、『神を賛美した』ことが強調されています。これは、救いに与った者のあるべき姿勢です。感謝と賛美に生きることがキリスト者の人生。そして、神の前に正しい姿勢で立つことが、感謝と賛美です。

▼白河教会時代、松平家の藩士の家柄で、戦前



神の前に正しい姿勢で立ち

は警察官を務めた方がいました。赴任して間もなく、重篤な病床にあったこの人を訪ねると、やはり教会員の夫人が、「今の夫の様子は、人様にお見せ出来ない」と断られました。何度訪ねても同じことで、亡くなるまでついにお目にかからずに終わりました。初めて

てお顔を見たのは、前後式の時でした。司式は前々任者の牧師でした。

▼一方、亡き夫は絵描き、息子も中学校の美術教師という老婦人は、途中休み休み、片道1時間近くかけて歩いて来ます。健康な人なら15分でしよう。息子さんか車で送ると言っても聞きません。歩くと、神さまの前に出る心の準備をするのだと仰す。時には、会堂の一番後ろの席に横になって

礼拝に与りました。1時間席に着いていることが大変困難な健康状態になっても、欠かさず礼拝に出していました。

▼どちらも、その人なりの、神さまに向かい合う姿勢であって、傍が批判することではありません。しかし、正直に言うと、後者の方が信仰者の姿ではないかと思えます。

昔、田舎の病院には、待合室に畳敷きの椅子がありました。普通の椅子よりも大きくて、病院によっては、畳2枚分あったでしょうか。礼拝堂にこれを導入することを提案

しましたが、役員会で否決されました。確かに、お行儀は良くないかも知れませんが。

▼大曲教会には、礼拝に必ず羽織袴で出席する人がいました。天皇陛下の前に出る時以下の格好は出来ないと言ったのがその理由です。その横に座る人は、常に野良着姿です。彼はこう言いました。「野良着は百姓の正装だ。」この出来事は私の赴任以前のことなので、主任牧師から聞いた話です。

▼どちらも、その人なりの、神さまに向かい合う姿勢であって、傍が批判することではありません。

11～12月の諸集会

諸集会を覚えて、ご加禱下さい。

聖徒の日・永眠者記念礼拝
11月2日(日)
礼拝後、墓前礼拝にまいります。

幼児祝福・教会ハザー
11月9日(日)

収穫感謝日

11月23日(日)

CSでは芋煮会を予定。

アドベント

11月30日(日) ↓

12月24日(水)

クリスマス諸集会

クリスマス礼拝・愛餐会

12月21日(日) 10:30 ↓

教会学校クリスマス会

12月23日(火・祝日) 14:00 ↓

燭火(イブ)礼拝

12月24日(水) 19:30 ↓

礼拝後、お茶の会

キャロリング